

平成 18 年 1 月 27 日

委員長コメント

【平成 17 年第 4 四半期】

- 1 今回の報告期間は平成 17 年 10 月 3 日から平成 18 年 1 月 1 日までの約 3 か月である。
法定報告に基づく新規 H I V 感染者報告数は 195 件（うち男性 180 件、女性 15 件。前回報告 205 件）で、前年同時期の新規 H I V 感染者報告数は 190 件である。
一方、新規 A I D S 患者報告数は 89 件（うち男性 77 件、女性 12 件。前回報告 89 件）で、前年同時期の新規 A I D S 患者報告数は 93 件である。
- 2 感染経路別に見ると、新規 H I V 感染者では同性間性的接触によるものが 126 件（全 H I V 感染者報告数の約 65%）と最も多く、そのうち 121 件が日本国籍男性であった。
また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 51 件（全 H I V 感染者報告数の約 26%、うち男性 37 件、女性 14 件）である。
一方、新規 A I D S 患者では同性間性的接触によるものが 31 件（全 A I D S 患者報告数の約 35%）、異性間性的接触によるものが 40 件（全 A I D S 患者報告数の約 45%、うち男性 31 件、女性 9 件）となっている。
年齢別では、新規 H I V 感染者は 20～30 代が多数（約 76%）を占め、新規 A I D S 患者は 30～50 代と広く分布している。
要約すると、感染者・患者とも 85%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が半数以上（約 61%）を占めている状態である。
- 3 平成 17 年 10 月～12 月末までの保健所における H I V 抗体検査件数は 23,705 件、自治体を実施する保健所以外の検査件数は 6,082 件、保健所における相談件数は 43,850 件となっており、いずれも前回報告より増加した。

【平成 17 年 年間報告（速報値）】

- 第 101 回～第 104 回動向委員会のデータ（平成 17 年 1 月 3 日～平成 18 年 1 月 1 日）を集計して、平成 17 年 1 年間を通しての数値を速報値として報告する。
- 4 平成 17 年 1 年間の新規 H I V 感染者報告数（速報値）は、778 件で前年（ ）より増加した。一方、新規エイズ患者報告数は 346 件と、前年より減少した。合計は 1,124 件であった。
これまで速報値の最高は平成 16 年で、H I V 感染者 748 件、エイズ患者 366 件（計 1,114 件）。
 - 5 平成 17 年 1 年間の「保健所等における H I V 抗体検査件数」（速報値）は、100,287 件（前年同時期 89,004 件）で、10 万件を超え過去 10 年間において、最多件数となった。相談件数は 161,474 件（前年同時期 146,585 件）であった。
 - 6 平成 17 年 1 年間の献血件数（速報値）は 5,312,830 件（昨年 5,473,140 件）で、そのうち H I V 抗体・核酸増幅検査陽性件数は 78 件（昨年 92 件）であった。10 万件当たりの陽性件数は 1.468 件（昨年 1.681 件）で、前年より減少した。

7 平成17年1年間の新規報告数（速報値）は、昨年の速報値と比べエイズ患者は減少、H I V感染者は増加し、検査件数についても増加している。これは、検査機会の増加によりH I V感染者の早期発見の機会が増加したことによるとも考えられる。

このため、国民は感染の機会が増えつつあることに留意して、H I V・エイズについての理解を深め、積極的に予防やH I V抗体検査の早期受診に努めていただきたい。

都道府県等においては、検査受診体制の整備を進めていただいているところであるが、現時点では一部にとどまっていることから、利便性に配慮した検査・相談事業を一層推進するとともに、地域の実情に応じて対象者を明確化して重点的な普及啓発等を推進し、H I V感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努める必要がある。